

委 員 会 報 告 書

No.1

委 員 会 名	第4回 オリンピック・パラリンピック支援特別委員会
開 催 日	2017年3月7日（火） 14:00～17:00
開 催 場 所	330 複合地区ガバナー協議会事務局「会議室」
記 録 者	L 山口一夫
出 席 者	委員長・L 鈴木定光 L 戸部研一、L 工藤 章、L 中嶋義臣、L 宮代彰久、L 吉田博晃、L 山口一夫、 L 池田和司、L 宮本慶文、L 阿部 勝、L 花輪武彦、L 高橋賢司、L 児玉清則 ゲスト 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副事務総長 布村幸彦様 大会準備運営第一局 パラリンピック統括部長 中南久志様 埼玉県障害者福祉推進課 障害者スポーツ担当主幹 大熊誉隆様 副課長 鎌田茂樹様
次 回 委 員 会	2017年4月11日（火） 15:00 ～17:00 場所：330 複合地区ガバナー協議会事務局 「会議室」

【議 事】

司会 L 戸部研一

鈴木委員長挨拶

- (1) 布村副事務総長より「大会ビジョン」スポーツには、世界と未来を変える力がある。三つの基本コンセプト「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の説明がなされた。東京2020では、パラリンピック競技会場を満員に埋めたい。リオでは、金メダルがなく選手の皆さんは大変苦勞されていた。選手強化にも力を注ぎたい。
- (2) 大熊主幹より、埼玉県のご提案 チャレンジド・スポーツ応援プロジェクトの説明がなされた。あらゆるチャンネルで障害者スポーツを応援してゆく。障害者スポーツを通じて、全ての人々とのバリアフリーにつなげたい。
- (3) 中島副委員長より B 地区委員会の提案の説明がなされた。東京2020に向けてライオンズのPRを主体に考えてみたらいかがか。
- NHK や組織委員会を巻き込んで全国的な PR につなげては。また、パラリンピック選手と海外選手との交流試合（エキシビジョンマッチ）やフォーラムの企画を提案したい。
- 鈴木委員長、PRには、賛成だが予算的に厳しい。また、パラリンピックの場合は、支援金を集めつつ支援をしてゆかねばならないので、メンバーに納得していただけるか、難しい。

(4) 井出議長より一般社団法人日本ライオンズでオリンピック・パラリンピック協力支援委員会の口座開設に時間がかかっている。

(5) 各委員より意見交換。

吉田副委員長 埼玉県でパラスポーツ支援のフェスティバルがある。C地区ライオンズにも10万円協力要請が来ている。オリンピック・パラリンピック機運が下がっている中でのフェスティバルなので頑張りたい。

(6) 支援するパラリンピック選手の選考について

井出議長 各複合から支援すべきパラリンピック選手の推薦は、難しい。

鈴木委員長 競技団体からリストアップしていただくことと並行して地域で応援している選手を推薦していただけたらどうか。推薦選手の支援は、その地域で集めた支援金以上は拋出しにくい。支援方法については、選手個人か競技団体を通すのか議論の余地がある。

(7) その他意見と決定事項

報奨金について、各委員賛成である。ライオンズのPRにもつながる。金額については、金・銀・銅の差別なく100万円が妥当ではないか。報奨金制度は、各委員賛成し協力支援の一つとして決定した。

新国立競技技場に例として時計台のように何かしらのレガシーを残したい。

以上